

広報

のぼうべつ

○No. 295 ○昭和55年2月1日発行 ○編集発行/北海道登別市/総務部公聴広報課 ○印刷/中西印刷



華やかな会場で「大人」の意識をかみしめる新成人



牛乳キャンペーンを展開



市民憲章を朗読する成人代表
(右 佐々木さん、左 若山さん)



募金運動に協力する新成人



女性の晴着姿が目立ちました



成人式の思い出に…

主な内容

- 市民の声集約 貴重なご意見・ご要望ありがとうございます 2P
- カルルス国民宿舎料金を値下げ 市議会第四回定例会から 3P
- これからは技能の時代だ 登別地方高等職業訓練校 4・5P
- 幌別東団地 市営住宅の入居募集 7P
- 公庫第三回受付け 2月27日まで 7P

20歳の顔はればれ

今年の成人式の該当者は六百六十八人。式は、その七十パーセンにあたる四百六十七人が出席して行なわれました。会場の中央公民館は、今年もあ

でやかな振りで姿が目立ち、友

達同士の談笑や記念撮影をする姿

も見られ、なごやかなムードがた

だよっていました。

式は、新成人による市民憲章の

朗誦で始まり、中浜市長をはじめ

トにあたる四百六十七人が出席して行なわれました。会場の中央公民館は、今年もあ

でやかな振りで姿が目立ち、友

達同士の談笑や記念撮影をする姿

も見られ、なごやかなムードがた

だよっていました。

式は、新成人による市民憲章の

朗誦で始まり、中浜市長をはじめ

高田道議会議員、室市議会議長、内藤教育委員長から「成人として

自覚を持ち、明日の社会の原動力

となれるよう希望いたします。」

と、はなむけの言葉が述べられま

した。

これに対し、新成人代表の中田

純子さん（中央町五／一二／五）

が「はつらつとした責任ある社会

の一員として、みなさまのご期待

に添うよう努力いたします。」と

胸を張ってあいさつ、「人生の一つの区切り」に、誓いを新たにしていました。式典終了後、一階フロアで来賓から記念品が手渡されたほか、ミルクキャンペーンの一環として新成人に牛乳が配られました。また、募金活動に協力するほほえましい光景も展開されていました。

胸を張ってあいさつ、「人生の一つの区切り」に、誓いを新たにしていました。

式典終了後、一階フロアで来賓から記念品が手渡されたほか、ミルクキャンペーンの一環として新成人に牛乳が配られました。また、募金活動に協力するほほえましい光景も展開されていました。

2 1980

貴重なご意見・ご要望

ありがとうございます

市民の声 集 約

総
数

二百五十八通
四百八十一件



寄せられたはがきに目をとおす中浜市長

- ▽衛生部関係
要望 九項目
- ▽水道部関係
要望 四項目
- ▽建築部関係
要望 七項目
- ▽消防本部関係
要望 二十九件
- ▽土木部関係
要望 四十五項目(百七十五件)
- ▽福祉事務所関係
要望 十三項目
- ▽議会事務局関係
要望 二項目
- ▽教育委員会関係
要望 三十六項目(五十八件)
- ▽総合計
要望 百八十三項目

がきは二百五十八枚、件数にしま
すと四百八十一件となりました。
市では、寄せられた方々にお礼
申し上げるとともに、内容の精査
を終りしだい回答をだすようにし
ています。

寄せられました貴重な意見や要
望は、すべて市長が目をとおし、
担当部局において、内容を検討し
回答をまとめています。

初めての試みのため、一部回答
が遅れていますが、近日中に回答
書を送る予定ですのでご了承くだ
さい。

また、せっかく寄せられた貴重
なご意見でも、無記名のため、ご
返事を差し上げられない方があり
ます。

○集約結果を各部ごとに分類しま
すと次のとおりです。

- ▽道路、排水の修理をして
- ▽総務部関係
要望 二十六項目(百十一件)
- ▽税務部関係
要望 一項目
- ▽市民部関係
要望 十五項目
- 国、道などにはがきの写しを送付

市道、市の排水について、担
当の者が現地を確認し対処してい
ますが、個所が相当数あるため、
計画的に補修を進めています。

また、国道、道道については、
市民各層からの五十人の審議会で

市道への認定 基準が緩和さ れました

昭和四十八年に定めた私道
を市道に認定する基準が次
のように緩和されました。

地城住民の生活道路として
すでに使用され、道路延長が
五十メートル以上ある行止り
道路(袋小路)についても市
道として認定いたします。

これは、これまで基準にな
かつた行止り道路(袋小路)
についても市民の市道昇格に
対する関心が高く、また要望
も多くなってきていたため、
これに対応して改正されました。

詳しい事は、土木課管理係
にお問い合わせください。(電
話5局2111内線267)

- ▽衛生部関係
要望 九項目
- ▽水道部関係
要望 四項目
- ▽建築部関係
要望 七項目
- ▽消防本部関係
要望 二十九件
- ▽土木部関係
要望 四十五項目(百七十五件)
- ▽福祉事務所関係
要望 十三項目
- ▽議会事務局関係
要望 二項目
- ▽教育委員会関係
要望 三十六項目(五十八件)
- ▽総合計
要望 百八十三項目

- ▽衛生部関係
要望 九項目
- ▽水道部関係
要望 四項目
- ▽建築部関係
要望 七項目
- ▽消防本部関係
要望 二十九件
- ▽土木部関係
要望 四十五項目(百七十五件)
- ▽福祉事務所関係
要望 十三項目
- ▽議会事務局関係
要望 二項目
- ▽教育委員会関係
要望 三十六項目(五十八件)
- ▽総合計
要望 百八十三項目

するともに、改修等について強
く申し入れを行なっています。
人口の多い地区から実施しなけ
ればならず、また実施にあたって
は、市民のみなさまの協力も必要
となつてまいります。工事の着工は、五十六年度以降
と計画しています。

協議を行なうことはできません。
下水道を実施するには、全市的
に計画する必要がありますが、一度に市内
全域を行なうことはできません。
人口の多い地区から実施しなけ
ればならず、また実施にあたって
は、市民のみなさまの協力も必要
となつてまいります。工事の着工は、五十六年度以降
と計画しています。

協議を行なうことはできません。
下水道を実施するには、全市的
に計画する必要がありますが、一度に市内
全域を行なうことはできません。
人口の多い地区から実施しなけ
ればならず、また実施にあたって
は、市民のみなさまの協力も必要
となつてまいります。工事の着工は、五十六年度以降
と計画しています。

協議を行なうことはできません。
下水道を実施するには、全市的
に計画する必要がありますが、一度に市内
全域を行なうことはできません。
人口の多い地区から実施しなけ
ればならず、また実施にあたって
は、市民のみなさまの協力も必要
となつてまいります。工事の着工は、五十六年度以降
と計画しています。

これからは技能の時代だ

登別地方高等職業訓練校

練センターが設置されました。

登別南高校、総合体育館といった文教ゾーンの一角落に、昨年四月に完成した登別市職業訓練センターがあります。

センター内には、登別地方高等職業訓練校があり、六十名の訓練生が働きながら、技能士や建築士の資格習得を目指してがんばっています。

同校では、現在五十五年度の訓練生を募集していますが、今号では訓練校の紹介をかね、スポットをあて特集しました。

登別市には、昭和四十八年に技能者の集団である技能協会が設立され、時代に適応した、より高度な技術を身につけるため、技能講習、技能検定などの事業を行なっています。

この訓練校は、市労働福祉センターを借りて行なっていましたが、市内若年労働者の育成拡大と職業安定、地位向上のため、より充実した訓練施設として、昨年四月、活動を続けています。



「こうして見れば、面の仕上りがわかる。」現場に出てもすぐに役立つ、生の指導が訓練校の特色だ。



講師の実技指導に、真剣なまなざしの訓練生。



昼休み時間、中央ホールにある卓球台で遊ぶ訓練生。

職業訓練校は、働きながらその職業に必要な専門的な技能や知識を基礎から科学的、体系的に訓練し、職場環境に対応できる応用性を身につけていただくための学校です。

△応募資格 昭和五十五年三月までに、中学校、高等学校、専修職業訓練校を卒業または終了の男子で、登別技能協会に所属する事業所に雇用されること。

△訓練に要する経費 訓練生、月額二〇〇〇円

事業主、月額二〇〇〇円

△締め切り日 三月二十日

△問い合わせ先 登別市青葉町四十二番十三 登別職業訓練センター内 登別職業訓練協会（電話51450）

生徒募集

▽募集人員

訓練科目	修業年限	募集人員
建築科	高卒（専修）3年	15人
左官科	2年	5人
板金科	2年	7人
建築製図科	2年	13人

広報のぼりべつ



幌別東団地

市営住宅の入居募集

中ですが、この住宅は三月下旬に完成予定です。

完成予定です

狂言は、能楽とともに我が固有の民俗芸能であり、室町時代の世相をこつけいで諷刺的に風刺した庶民性の濃いもので、むかしの人々に広く親しまれました。それを重要無形文化財に指定されている野村万作氏を中心として、子孫は今も狂言を継承・発展させています。

群を抜く絵画のレベル

学校めぐり⑩

カルルス温泉小学校



これがカルルス小のフル・メンバー 校旗を囲む10人の
担任と先生3人

毎年北海道教育美術展に出品しており、この二年間は連続して入賞者を出しています。

体育の時間は、とても正規の人数での野球やバレー、ボールなどはできませんが、夏の間はテニス、冬期間は近くにあるカルルススキーリング場を利用するなど、環境をいかした体力づくりに力を注いでいます。

とどくものに、多人数での経験をふませ、辺地校の欠点を補っています。

また、運動会では父母や地城の人達、さらには旅館のお客さんまで一緒になって、楽しい一日を過ごしています。

学校行事や児童の詩、作文などを載せた、月一回発行の「学校だより」が、学校での生活を知らせたり、父母とのつながりを深めていきす。

十人いっしょの図工の授業 学年に応じて作品の大きさが違う。

